

[プレスリリース]

2018年3月  
株式会社 サウザンブックス社

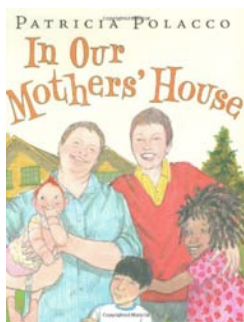
報道関係各位

**LGBTの本を世界から！サウザンブックスの「プライド叢書」第二作目、  
レズビアンのお母さんたちと子どもたちの暮らしを描いた名作絵本、  
『In Our Mothers' House (ママたちの家で・仮)』の翻訳出版  
を目指すクラウドファンディングを実施中！**

世界の面白い本、本当に必要とされている本を、クラウドファンディングを活用して翻訳出版するサウザンブックス社（東京都渋谷区）は、レズビアンのお母さんたちと子どもたちの暮らしを描いた名作絵本『In Our Mothers' House (ママたちの家で・仮)』の翻訳出版をめざすクラウドファンディングを2018年5月27日（日）まで実施しております。

クラウドファンディングには一般販売予価より10%OFFの「2,000円+税」の絵本一冊コースや、自分に一冊、図書館等に一冊寄贈するペイフォワードコースなど、多彩なコースを設けております。つきましては、本クラウドファンディングのご支援、並びに、本件のご紹介/取材のご検討の程を何卒よろしくお願いいたします。

## ■ 書籍『In Our Mothers' House (ママたちの家で・仮)』について



『In Our Mothers' House』  
Patricia Polacco 著

発行年：2009年  
発行所：Philomel Books  
発行国：アメリカ  
言語：英語  
仕様：上製本/A4変形/48ページ/フルカラー  
ジャンル：フィクション（絵本）  
INBN：978-08883-93173

うちは、お母さんが2人、子どもが3人の「かぞく」。でも、特別なんかじゃない。

絵本『In Our Mothers' House』は、レズビアンのお母さんたちと子どもたちの暮らしを描いた作品です。レズビアンカップルの、マーミーとミーマーの作る家庭は、とてもにぎやか。近所の家と、なにも変わりません。3人の子どもたちの元気な声が家中にひびき、2人の母親は子どもたちといっしょに、料理をしたり、踊ったり。楽しいそうなことには、なんでもチャレンジしてみます。

ときには、偏見のある人に出会ったり、いじわるなことを言われて傷ついたりすることもあります。でも、明るい家族は、しっかりと地域にとけこみ、さまざまな人たちとまじわりながら、どこにでもいる「家族」の1つとして、生活を重ねていきます。2人の母親は、こどもたちに教えます。「人と違うのは、いけないことではないのよ。むしろ、違いがあるのは、良いことなの」

子どもたちは、いつしか巣立ち、マーミーとミーマーも年を重ね、おばあちゃんになっていきます。変わらないのは、家族をつなぐ愛情……。家族の、はじけるような笑顔。差別をうけて、堂々と抗議する顔。悲しみをわかちあおうと寄りそう顔。そして、苦楽をのりこえて寄りそう、2人のおばあちゃんの顔……。ストーリーももちろん、パトリシア・ポラッコの描く、リアルで親しみやすい表情のイラストも見どころの1つ。

家族に必要なものって、なに？子どもを育てるのは、特別なことではない。たった1つ、大切なもの、それは……。

大切なものに気づかせてくれる絵本です。



■著者：Patoricia Polacco (パトリシア・ボラッコ)  
作家、イラストレーターとして活躍し、日常の問題をテーマにした作品を多く手がけ、これまでに45冊もの児童書を出版している。全国の学校を訪問して講演活動も行っている。本書『In Our Mothers' House』は、講演活動を通じて、レズビアンマザーの親を持つ何人もの子供たちと出会い、こういった伝統的な形ではないかもしれないが素晴らしい家族を持つ子供たちのために、さまざまな家族の形を讃える本を書く必要を感じて誕生した。日本で翻訳出版されている絵本には『ありがとう、フォルカー-せんせい』(岩崎書店)、『彼の手は語りつく』(あすなる書房) などがある。  
<http://www.patriciapolacco.com>

## ■ プロジェクトの応援団体「にじいろかぞく」の代表・小野春さんより

こんにちは、わたしは「にじいろかぞく」の代表を務める小野春と申します。「にじいろかぞく」とは、子育てをするLGBTとその周辺をゆるやかにつないでいる団体です。今回は、アメリカからやってきた、レズビアンファミリーを描いた絵本「in ourmother 's house」の翻訳プロジェクトがサウンズボックスさんでスタートするとのことで、ぜひ私たち「にじいろかぞく」も、このクラウドファンディングのプロジェクトを応援させていただきたいと思いました。レズビアンというのは女性同性愛者のことを指しますが、この絵本には、子育てをしているレズビアンの家族が登場します。彼女たちは、血の繋がらない子どもたちを迎え、家族を作っていきます。いかにもそこら辺にいそなお母さんたちと、肌の色の違う子どもたちの暮らしぶりが、著者ボラッコによる豊かな色彩で描かれてゆくとともにとても素敵な絵本です。

わたし自身の話を少しさせていただくと、わたしもこの絵本に出てくるお母さんたちと同じく、同性のパートナーとともに、3人の子どもを育ててきたレズビアンマザーです。この絵本のお母さんたちと違うのは、わが家の場合は、それぞれかつての結婚でもうけた子どもを連れて家族になった、ということでしょうか。この暮らしを始めたのは13年前。当時は全員保育園児だった子どもたちは、いまでは大学生と高校生になりました。

「にじいろかぞく」を立ち上げたのは2010年。当時、自分が同性パートナーとの子育てに悩み、同じ立場の人の話が聞きたかったことがきっかけでした。以来ゆっくりと育ち、現在は会員数60人近い団体になりました。レズビアンファミリーだけでなく、ゲイ(男性同性愛者)ファミリーやトランスジェンダー(性別違和感を持つ人)の家族、ひとり親やこれから子どもが欲しい方、異性愛者の方、更には子どもを持たない選択をされた方まで、多様なひとが参加してくださっています。普段はピクニックやお茶会をしたり、育児の悩み事を相談しあったりと、子どもを中心とした活動を行っています。

この「in ourmother 's house」を読んだとき、自分たちのような家族は、普段の暮らしのなかではなかなか出会うことはないけれど、実は国が違っても、文化が違っても、世界各地に暮らしている、普遍的な家族のひとつなのだと初めて感じられて、とても嬉しかったことをおぼえています。

LGBTの家族と聞くと、特にまだそうした家族に出会ったことがない方は、もしかしてなんだか少しこわいもののように感じられるかもしれませんが。

だけど、この絵本を読んでいただければ、実はなんてことない暮らしをしている、ごくごく普通の家族に過ぎないのだ、と感じていただけたらと思います。

世の中を見渡してみると、実はもうすでに、お父さんお母さんと血の繋がった子ども、という形ではない家族が、たくさん暮らしています。ひとり親、別々に暮らす家族、おじいちゃんおばあちゃんと暮らす子ども、里親や養子、そしてLGBTの家族。色々違って、だけどみんな同じ「家族」。この絵本のなかのマーミーとミーマーが、皆さんにとっての、なんてことない隣人になってくれることを願って。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 「にじいろかぞく」

子育てするLGBTとその周辺をゆるやかにつなぐ団体。WEBやイベントを通じた情報発信やコミュニティづくりなどを行っている。

<https://queerfamily.jimdo.com>

## ■セクシュアル・マイノリティが誇り高く生きていくための世界の本を出版するシリーズ、サウザンブックスのPRIDE叢書について

サウザンブックスのPRIDE叢書は、セクシュアル・マイノリティが自らを肯定しプライドを持って生きるために役立つ世界の本を、クラウドファンディングを活用して出版するシリーズです。その編集主幹として、ライターとして活動するゲイ・アクティビストの宇田川しいを迎え、出版を軸にしたセクシャル・マイノリティのコミュニティづくりを目指しています。

一作目のスペインの人気ブロガーがLGBTの声にもとづいて書いたゲイ小説『ぼくを燃やす炎』では、クラウドファンディングの支援者数382名/支援金額2,907,780円という素晴らしい結果を出すことができ、現在、全国書店で一般発売しております。



### 宇田川しい（うだがわ・しい）

ライター、編集者。ゲイ・アクティビスト。90年代のゲイブーム時代からゲイであることをカミングアウトしライターとして主にストレート向けのメディアで活動。近年ではハフポストジャパンなどでセクシュアル・マイノリティのリアルな姿や、社会における問題を伝える記事を執筆している。

## ■クラウドファンディングのコースについて

- ・書籍1冊10%OFFコース
- ・電子書籍コース
- ・自分に一冊+図書館等に寄贈を一冊のペイフォワードコース
- ・書籍の最後のページにご自身のお名前を掲載するコース（すべての本に印刷されます）
- ・出版イベントに参加コース

などなど、クラウドファンディング期間中のみのお得で楽しいコースが満載です！

詳細は、クラウドファンディングのWEBサイトもしくは同梱のチラシをご参照ください。

<https://greenfunding.jp/thousandsofbooks/projects/2179>



## ■サウザンブックスと支援金の使途について

サウザンブックスは、言葉や文化の壁を越え、読者の心に響く1冊を、クラウドファンディングを活用して翻訳出版しています。クラウドファンディングを活用する理由の1つには、翻訳出版には、原書の著作権取得費用や出版エージェント手数料などが必要で、日本語の本を出版するよりも制作費がかかり、そのため、売れ筋のタイトル以外は発行しづらいという状況があるためです。

このプロジェクトの支援金については、「著作権購入費」「出版エージェント費用」「翻訳費」「編集・デザイン・DTP費」「印刷・製本費」「発送・流通費」など、本の制作からお届けにかかる費用一式に使用させていただきます。

<http://thousandsofbooks.jp>

(※1):サウザンブックスはCCC (TSUTAYA) グループのクラウドファンディング・サービスの「GREEN FUNDING (グリーンファンディング)」と提携してサービスを提供いたします。

### 掲載や取材に関するお問い合わせ先：

株式会社サウザンブックス社

担当：古賀・安部

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2丁目30-4

TEL: 03-6869-9395 FAX: 03-3379-9802 E-mail: [info@thousandsofbooks.jp](mailto:info@thousandsofbooks.jp)

URL: <http://thousandsofbooks.jp>